

祝 国立劇場おきなわ開場20周年

# 琉球芸能 春秋座特別公演

2024年

6/1(土)

14時開演 (13時30分開場)

京都芸術劇場 春秋座 (京都芸術大学内)

主催

京都芸術大学 舞台芸術研究センター / 沖縄県 / 公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団



京都芸術劇場  
春秋座



琉球  
歴史文化の日



国立劇場おきなわ  
National Theatre Okinawa

# ご挨拶

京都芸術劇場 春秋座 芸術監督  
藤間 勘十郎

皆様、本日は京都芸術劇場 春秋座にお越しいただき誠にありがとうございます。

昨年、当劇場の芸術監督に就任いたしました藤間勘十郎でございます。舞踊家、演出家、音楽家として未だ駆け出しではございますが、当劇場初代芸術監督二代目市川猿翁(三代目市川猿之助)の掲げた「実験と冒険」の精神を常に持ち、この劇場に私の全てを注いでいく所存でございます。これからも宜しくお願い申し上げます。

さて本日は皆様に「琉球芸能 春秋座特別公演」をご覧いただきます。春秋座では、二〇二二年度から隔年で国立劇場おきなわとの共同主催により琉球芸能公演を開催してまいりました。今回で七回目の公演となりますが、毎回、琉球芸能の奥深く多彩な魅力をお届けし、数多くの観客の皆様からご好評をいただいております。

本日のプログラムでは、琉球王朝時代の式楽「組踊」、琉球・沖縄の歴史と伝統の中で洗練を遂げてきた「琉球舞踊」、琉球芸能の流れを汲み明治以降に生まれた「沖縄芝居(歌劇)」という三つの柱で、琉球芸能の精髓を堪能していただきます。琉球舞踊は、沖縄独特の時の流れが感じられる大切な芸能であり、観どころ、聴きどころが満載です。我々日本舞踊家にとっては非常に近いところがあり、また他の芸能・歌劇には中々見られない表現方法が感じられるとも思っています。

国立劇場おきなわの金城真次芸術監督のお話では、近年、「組踊」「琉球舞踊」「歌劇」が一挙にひとつの舞台に乗ることは、かなり少なくなっているそうです。そうした意味でも今回の公演は、貴重な機会となるかと思えます。是非、金城芸術監督をはじめとする出演者皆様方の、「こ」春秋座でしか観ることの出来ない、すばらしい舞台を楽しんでいただければ幸いです。

# 琉球芸能 美の京都編

国立劇場おきなわ芸術監督  
金城 真次

「次の春秋座の琉球芸能公演はいつですか。」

昨年の暮れ、国立劇場おきなわのロビーで、お客様からこんな嬉しい御言葉を頂戴しました。隔年で開催しております本公演は、関西のみならず沖縄までも、いい意味で騒がせているようです。と言いますのも、春秋座公演となると、欲深な私にさらに拍車がかかり、沖縄ではあまり見られないような特別な演目を組む傾向があります。琉球芸能を知り尽くしておられる田口章子先生の熱き要望に応えるべく、今回も「琉球舞踊」「組踊」の二本柱でお届け致します。何と言いましても、その三本柱すべての地謡を担うのが、人間国宝の西江喜春先生の歌声です。辰年生まれの数え八十五歳ながら、張りのあるあ的美声は他の追随を許さず、琉球芸能ファンからは、

「衰えるどころか、ますます磨きがかかっている！」

と絶賛する声も聞こえているくらいです。そんな超人のような西江先生とともに、同じく人間国宝の比嘉聰先生が太鼓でご出演ですので、必ずや、古の琉球の音色を客席に運んで下さることでしょう。さらに、今回も組踊の立方指導を快く引き受けて下さったのが、人間国宝の宮城能鳳先生です。西江先生同様、春秋座の琉球芸能公演には初期から関わっておられ、組踊界の重責を担い続けているお一人です。また、その高弟の嘉手苧林一先生や、国立劇場おきなわ前芸術監督の嘉数道彦先生をはじめとする個性豊かな出演者の皆様が、どのような芸を披露するのか、私も出演者の一人ながら、そこは楽しみでなりません。

さて、皆々様の多大なるご尽力により、国立劇場おきなわも開場から早二十年が経ちました。月日の経つのは本当にあつという間でも、もちろん、令和六年の六月一日もあつという間にやってきました。終わらないうちから、次回の春秋座琉球芸能公演が楽しみでなりません。沖縄では、この三月までに二十周年記念公演の全日程を終えたところですが、本公演には、祝二十周年の冠がついております。春秋座関係者の皆様の細やかなご配慮に、深く感謝申し上げます。

夏の京都に咲く紫陽花は特に美しいと言われていますが、「いやいや、紫陽花に負けず劣らず、夏の京都で観る琉球芸能もひときわ美しいのです。そしてそれを証明するのが、琉球芸能春秋座特別公演なのです。」

## 寄稿

# 近代沖縄芸能の父 伊良波尹吉

具志 幸大

## ■伊良波尹吉はどのような人物なのか

組踊の創始者と言われる玉城朝薫(一六八四年〜一七三四年)について、姿を見た者がいないのは当然ですが、本音を言いますと(語弊が生じるかもしれませんが…)、実在したかにつきましても確証がないものです。組踊に携わる者が、実際に演じてみたり鑑賞したり、あるいは研究者の方々は文献等を手掛かりに、各々が想像する「玉城朝薫」を描いているのではないのでしょうか。一方で、近代沖縄芸能の父と言っても過言ではない伊良波尹吉(一八八六年〜一九五一年)につきましても、直伝の役者かつ舞踊家伊舎堂正子(一九一五年〜一九九六年)の舞台を、幼少期に私の目で見ることが叶っており、その姿を通して、おぼろげながら伊良波尹吉の面影を推し量ることが出来ます。

少し脱線いたしますが(沖縄芝居の歴史として…)、私が二十六歳まで生活を共にした大正時代生まれの祖母は、昭和七年(一九三二)十九歳にして名護村羽地(はねじ)から真和志村(まわし)上之屋に移



伊良波尹吉



伊良波冴子(左)、伊良波晃(右)  
歌劇「音楽家の恋」(伊良波尹吉・作)より

ら生まれたこともあって、幸いに私から見るとの親世代であり、私が十八歳あたりまで沖縄芝居の二枚目スターとして活躍していたことから、多くの舞台を鑑賞することができた。また直接お会いすることもでき、冴子演出の舞台にも出演させていただきました。

また、晃には後継者の輝人(太道具制作)、\*5ゆき(沖縄芝居役者)といった芸能者があり、幸いにも度々舞台をご一緒させていただきました。

祖母の言葉や、伊良波尹吉のDNAを受けた四名の姿を重ね合わせ、私が描く伊良波尹吉は、間違いなく美男美声の名優です。

## ■伊良波尹吉の沖縄芝居における作者としての役割

沖縄芝居においては、公演のメインとなる長編の歌劇に加え、前狂言として多く上演される短編の「喜歌劇」があり、他の作者によるものは悲劇が中心であることに對して、伊良波尹吉の作品は喜び、教訓といった内容が多く、且つ様式性を感じる芸術性の高いものが多いようです。現在でも、各劇団の座長や演出家が独自の芸風により上演を重ね、演じる者、観る者の双方に親しまれています。

また、現在の琉球舞踊においては、明治以前に士族により、士族の生活をテーマにして作られたものを「古典舞踊」、明治以後に沖縄芝居の世界から生まれた、庶民の生活を題材に作られたものを「雑踊」、戦後に生まれたものを「創作舞踊」と分類されており、伊良波尹吉は多くの雑踊を残しています。

現在まで継承されている雑踊は、名優・玉城盛重（一八六九年―一九四五年）の作品が最も古く、本公演に取り上げられている『花風』をはじめとする、約七〜八題ほどが存在します。玉城盛重は古典の正統的な継承者と言われるが故に、生み出した雑踊は庶民性が溢れるものの、古典の様式や所作が重視されていることから「準古典」と称されています。

玉城盛重が舞台を引退すると同時に、農家の出の伊良波尹吉が沖繩芝居の役者となり、多くの雑踊を生み出すこととなりました。前述の歌劇作品も含め、伊良波尹吉の作品には、先輩役者による作品をベースに庶民の風習を情景描写したものや、西洋の文学を沖繩の風姿にアレンジしたもの、日本本土や外国の舞踊やダンスの特徴的な振りを取り入れるといった斬新且つ大胆な発想で作品を仕立てていきました。

また、伊良波尹吉は三線の演奏はもちろん、歌唱にも優れていたと言われ、本公演に取り上げられている『鳩間節』は、既存の曲を軽快なテンポに自らが編曲、他の作品においては、既存の曲の歌詞のみを用いて、自ら作曲し振り付けるといった手法で作品を仕立てた、作曲家としての一面も特記されます。

また、琉球舞踊においては雑踊と創作舞踊の境界線について議論されることがあるようですが、創作舞踊は戦後、琉球舞踊が組織の長の芸風を尊重する流派派制となったことなどにより、作品そのものが門外不出となっていた中で生まれたもの、一方で雑踊は玉城盛重、伊良波尹吉によって生み出された作品の、構成と特徴的な所作が踏襲されたいえでの、各流派派、または演者の工夫や個性が生かされる、といったこともいえるかもしれません。

伊良波尹吉が生み出した歌劇、雑踊は、今や全ての沖繩芸能者が必ず触れる、沖繩芸能界全体の公の財産となっています。正しく「近代沖繩芸能の父」と言えるでしょう。

## ■伊良波尹吉の主な作品について

沖繩芝居の中核は「歌劇」で、中でも優れた四作品について、後の役者らはいつしか「四大歌劇」と称するようになりますが、その内の二作品『薬師堂』（一九二二年初演）、『奥山の牡丹』（一九二四年初演）が伊良波尹吉の作品です。

雑踊『加那よー天川』という男女のコンビ舞踊は、「雑踊の最高傑作」と称されます。以下、伊良波尹吉の名作について、内容を簡潔に記します。

## ■沖繩芝居

### 歌劇『薬師堂』

白河白露という若者が三月三日の「浜下り」（女性たちが厄払いの為に浜に行き、砂を蹴り飛ばしたり、貝を拾ったり、または太鼓を打ちながら歌い踊る）を見学する中、初岡鶴という娘に一目

## ■舞踊（雑踊）

### 『加那よー天川』

雑踊の最高傑作と称される、男女のコンビ舞踊。愛の証である「花染手巾」<sup>※8</sup>「ミンサー帯」<sup>※9</sup>の交代、天川の池で遊ぶ鴛鴦の様を、テンポの速い曲にのせて表現している。

### 『鳩間節』

八重山群島にある「鳩間島」を称えた歌曲をアレンジした作品で、軽快なテンポに編曲し、日本舞踊のカップレを所作に取り入れるなど、大正時代の初演当時にはかなり斬新であったことが察せられる。後に多くの舞踊家が個性を生かした独自のものを作りあげている。

## 『南洋浜千鳥』

戦前に巡業のために訪れていた南洋群島において、とある悲劇に見舞われた伊良波尹吉が三線を手に、既存の浜千鳥節の歌詞にのせて編曲し、体を反り返らせたりといったダンス的な振りで即興的に生み出した作品。直接指導を受けた伊舎堂正子により戦後、数名の役者や舞踊家に伝授されたほか、作者自身が伝えた名護市久志では地域の芸能として現在も継承されている。



伊良波さゆき(左)、金城真次(右) 歌劇「奥山の牡丹(伊良波尹吉・作)」より

た母親が、一人寂しく山奥で暮らしているところを探しあてる。母親が帰らなければ自らも山奥で母と暮らすという山戸と、もし自分が付いていくと物乞の子と知られ息子の出世の妨げとなることを恐れるチラー。チラーは生後間もなく分かれた我が子と思い、大切に育てた牡丹の花を山戸に眺めるよう促し、その隙に崖から身を投げる。身分階級制度が生んだ悲劇を描いた傑作である。

## 喜歌劇『想い』

裕福な家系の婿養子となった中年の男主ぬ前が、辻遊郭の美女チル小を身請けするため、下男に大金を背負わせて辻遊郭にやってくる。チル小には思いを寄せる貧しい青年里之子がおり毎日忍んで来る。抱親「尾類アンマー」はチル小に遊郭はお金が大切だと諭す。様々な想いに挟まれたチル小は、二人の男の心を探ろうと、自害の真似をする。死後の身請けを申し出たのは里之子であり、二人は尾類アンマーの許しを得て結ばれる。一方の主ぬ前は郭通いに腹を立てた妻より家を追い出され、乳飲み子も渡され悲惨な姿となり、笑いものとなる。琉歌によるセリフに旋律を持たせた「ツラネ」と地謡の掛け合いといった、様式美も見られる傑作。

惚れをする。以後、密会を続ける二人に父親が怒り勘当する。共に追い出された乳母の家に身を寄せていた鶴は、白露に出世してもらうため、自らが他界したことにして、遺書に学問に励むよう記し乳母に託す。見事科挙に合格した白露が鶴の霊前に報告しようとしたところ、鶴が現れて、更には鶴の父親から二人の仲も認められてハッピーエンドとなる。初岡家の下男役や、白露の学問仲間の真刈による滑稽な演技には客席が笑いに包まれる。

## 歌劇『奥山の牡丹』

物乞集落の娘チラーと士族の青年サンデーとの間に授かった息子、山戸が二十歳後に科挙に合格し出世を果たしたところ

※1 伊舎堂正子……戦前、南洋において伊良波尹吉と同じ一座で活動し、戦後は乙姫劇団に所属し舞間舞踊として『南洋浜千鳥』を度々踊っていたと聞いており、筆者自身、昭和六十年（一九八五）に鑑賞している。

その後、同作を舞踊家の佐藤太圭子にも伝授したほか、昭和六十三年（一九八八）五月の乙姫劇団公演では、伊舎堂を中心に、団員総出演の群舞として発表されている。筆者はこの舞台も拝見しており、昨年九月、自身が外部演出を務めた、国立劇場おきなわ沖繩芝居鑑賞教室においても、女性実演家九名の群舞として取り上げた。

同劇団の名優、間好子とのコンビでよく踊っていた伊良波直伝の『加那よー天川』（こちらも実際拝見については、伊良波晃、冴子にも伝授している。

伊舎堂正子には、舞踊を指導する際に「拍子抜け」（所作の見せ場で、一瞬息を飲み込むように決めよ）とよく話していたという。

※2 伊良波兎……戦後、父親である伊良波尹吉が他界した後は大仲座に預けられ、沖繩芝居の二枚目スターとして活躍。抑制された演技と、歌劇における歌唱が高く評価されていた。晩年は喜劇、三枚目なども好演している。

※3 伊良波冴子……戦後、父親である伊良波尹吉が他界すると、乙姫劇団に預けられた。昭和四十年代（一九六五）に同劇団を退団。持ち前の美貌で、娘役などを多数演じた。沖繩芝居の歴史上、女優では、No.1の美声と謳われている。

平成十年代（一九九八）以降は、自らの主催公演において、多くの若手舞踊家などを起用し、それにより育った実演家が現在も活躍中である。

※4 伊良波輝人……担い手が不足している、沖繩芝居の大道具制作について研鑽を積んでいる。

※5 伊良波さゆき……幼少の頃より、沖繩芝居の子役として大役を演じてきた。伊良波家特有の美声の持ち主で、令和二年（二〇二〇）、沖繩県指定無形文化財「琉球歌劇」保持者に認定。沖繩芝居研究会を結成し、十年以上に渡り、地道に後継者の育成につとめている。

※6 玉城盛重……戦前の名優で、沖繩の團十郎と謳われ、現役引退後は、後継者の育成につとめたとされている。現在の琉球舞踊界においては、七割あたりが、玉城盛重の流れを汲む。今回の立方出演者も、全員が盛重に辿りつくのではないだろうか。

※7 ツラネ……旋律をもった粗踊のセリフ（唱え）から変化したと推測される、沖繩芝居における吟法。琉歌の詩型（八八八六）による詩を、立方が唱える。

※8 ミンサー帯……四角形の模様を、五ないし四個組み合わせた柄が特徴の、伝統的な織物からなる帯。五と四は、「何時（五）の世（四）までも……」の意味合いだといわれている。

# 第一部 琉球舞踊と沖縄芝居

んに まづいん  
**稲まづん** 《踊り手》金城真次

五穀豊穡を祈る女踊で幕が開きます。この踊りの小道具の稲穂は、まさしく世果報の象徴であり、稔り豊かな御代を願って踊ります。紅型衣裳の華やかさとともに、厳かな雰囲気醸し出す古典女踊です。

〔稲まづん節〕  
今年毛作りや あん美らさゆかて  
倉に積ん余ち 真積しやびらヨー  
倉に積ん余ち 真積しやびらヨー

〔早作田節〕  
銀白なかへ 黄金軸立てて  
試し摺り増さる 雪の真米

くだい くどうち  
**下り口説** 《踊り手》嘉数道彦

道行を意味する杖(チーグーシ)を小道具に用い、凛々しく踊る古典二才踊です。任務を終えた琉球の役人の薩摩から那覇港までの船旅の様子が描かれています。

一 さても旅寝の飯枕 夢の覚めたる心地して  
昨日今日とは思へども 最早九月なりぬれば  
二 やがて御暇下されて使者の面々  
皆揃て 弁財天堂伏し拜で

はどまぶし  
**鳩間節** 《踊り手》川満香多

明治、大正、昭和にかけて活躍した沖縄芝居役者の伊良波尹吉が、大正の初め頃に振り付けた作品で、大和の「かつほれ」の技法を用いた、明るく楽しい雑踊です。音曲も、八重山地方の原曲がアップテンポに編曲されています。

三 いざや御飯屋 立ち出でて 滞在の人々  
引き連れて行屋の浜にて立ち別る

四 名残惜し気の船子ども 喜び勇みて  
帆揚げの祝の杯 巡る間に

五 山川港に走い入りて 船の改め  
済んでまた 錨引き乗せ 真帆引けば

六 風やまともに子丑の方佐多の岬も  
後に見て 七島渡中も 安々と

七 波路遙かに眺むれば 後や先にも  
友船の帆引き連れ 走り行く

八 道の島々早過ぎて 伊平屋渡立つ波  
押し添いて 残波岬もはい並で

九 ありあり拌み御城元 弁の御嶽も打ち続き  
(エイ)  
袖を連ねて諸人の迎えに出でたや 三重城

はなふう  
**花風** 《踊り手》新垣悟

人目を忍んで、愛する男性の乗る船を見送る遊女の心情を切々と踊ります。小道具の藍傘と花染手巾が、別れの寂しさをさらに強く印象づけ、現在では、雑踊の最高傑作と称されています。

〔花風節〕  
三重城に登て 手中持ち上げれば  
早船の習ひや 一目で見ゆる

〔下出し述懐節〕  
朝夕さも御側 拌み馴れ染めの  
里や旅しめて 如何し待ちゆが

## 沖縄芝居・喜歌劇「想い」

多数の沖縄芝居を世に送り出した、伊良波尹吉の作品です。この作品は、歌劇の醍醐味のひとつである「ツラネ」の技法が多く使用されており、舞踊的な表現も見どころです。美貌の遊女チル小と、チル小を身請けしようとする主ぬ前、チル小と相思相愛の若侍、登場人物それぞれの「想い」が明るく描かれています。

〔主ぬ前〕 嘉数道彦 〔歌三線〕 西江喜春 (人間国宝)  
〔妻〕 伊禮門綾 花城英樹  
〔里之子〕 金城真次 玉城和樹  
〔チル小〕 知念亜希 大城貴幸  
〔下男〕 國場海里 〔箏〕 宮里秀明  
森山康人 〔笛〕 宮城英夫  
赤嶺啓子 〔太鼓〕 比嘉聰 (人間国宝)

主ぬ前 家禄五百貫  
二人にかたみらち  
あぬひやカミジャ小が胴代入りが  
へ行ちゅん  
テントウルルン テントウルルン  
テントウルルトウテン

主ぬ前 家禄五百貫  
二人にかたみらち  
あぬひやカミジャ小が胴代入りが  
へ行ちゅん  
テントウルルン テントウルルン  
テントウルルトウテン

### 詞章

### 意識

家禄五百貫を二人に担がせてあの娘の身請けをしに行くんだ。行こう、行こう

遊郭通いしても、しなくても同じ年を取るものだ。どうせなら遊郭通いをした方がいい。

主ぬ前(大志) 酒ん飲むしがる 親ぬ孝んすゆる  
下男(砂川) 尾類ん呼ぶしがる 元祖継じゆる  
主ぬ前・下男 へやさやさ テントウルルン テントウルルン  
主ぬ前 尾類ぬ客惚りや 荒神ぬ前ぬかた 片目ふらちゃしゃ 諸見ヤマー小  
主ぬ前・下男 へやさやさ テントウルルン テントウルルン  
主ぬ前 尾類ぬ客惚りや 荒神ぬ前ぬかた 片目ふらちゃしゃ 諸見ヤマー小  
主ぬ前・下男 へやさやさ テントウルルン テントウルルン  
主ぬ前 尾類ぬ客惚りや 荒神ぬ前ぬかた 片目ふらちゃしゃ 諸見ヤマー小

歌「仲風節」 へ暮らさらぬ 忍で来やる 御門に出じみしよれ 思い語ら  
歌「百名節」 仲前かく金ぬ ちゃんみかち鳴りば 悪魔ゆむ親や 顔ぬ変わてい

酒呑みこそが、親孝行もなさいます。遊郭通いの者こそが、家督を継ぐものにふさわしいのです。そうだ、そうだ。  
遊女が客に惚れるのは遊郭の形見。片目を開けたのは諸見のヤマーだよ。そうだ、そうだ。  
それに勝る 雨屋のマカーちゃん。身投げ金をどんと払って、轟かせてみせよう。行こう、行こう。  
思いが募つて、どうにもならないので 忍んで来ました。門前にお出まし下さい。語り合いますよう。  
面影に惹かれて 忍んで来たよ。意地悪な母親は 起きてはいないか。玄閼の留め金が カチャンと鳴れば、意地悪な母親は 血相が変わるのです。玄閼の留め金が カチャンと鳴れば、意地悪な母親は 血相が変わるのです。

里之子  
恋ぬ邪魔すゆる 悪魔ふくるぎや  
何時枯りてい呉ゆが  
年や寄ゆい

歌「百名節」  
悪魔ふくるぎや  
何時枯りてい呉ゆが  
年や寄ゆい

尾類アンマー  
仲前番手しち  
入ららんで里前  
でいちゃよ波之上に  
連りてい遊ば

歌「 Dank 節」  
ありありあり、待ちみしらに。  
アンマーよーアンマー、アンマー！

尾類アンマー  
ぬーがたい、  
ぬーでーびるが。  
うふいなーなー  
アンマーよーしみそーち。

主ぬ前  
一大事なとーしが。  
チル小んかい虫ぬ付ちよーん。  
取つてい捨ていれー！

尾類アンマー  
虫ぬ付ちよーん？あきとーなー！  
さていむ銭呉ゆる 客やちゃん投ぎてい  
肝迷いしるな かなし産し子

里之子  
銭どうかめさるい我どうかめさるい  
チル小  
銭やアンマー物  
里どうかめさ

歌「百名節」  
肝からかぬさや此の里前  
じるに片付きが  
定みぐりさ

尾類アンマー  
銭頼む尾類ぬ 肝迷いしるな  
あまくまん要  
掛けてい思り

恋の邪魔をする毒草のような母親は、  
いつ枯れてくれるのか、  
待てば年を取ってしまう。

恋の邪魔をする  
毒草のような母親は  
いつ枯れてくれるのか、  
待てば年を取ってしまう

玄関に番人がいて  
入つてこれないのなら、  
波之上に  
出かけて遊びましょう。

玄関に番人がいて入つてこれないのなら、  
波之上に出かけて遊びましょう。

おいおい、待て！  
おかみ！おかみ！  
どうなさったのです。  
そんなに大声で呼ぶなんて。

一大事だ。  
チルーに虫がついている。  
取つて捨てろ。

虫ですつて？あれまあ！  
お金を運ぶ客を放つておいて、  
迷うんじゃないよ、可愛い我が子よ。

愛しているのは金か？私か？  
お金は母の物、  
私はあなたを愛しています。

お金の為の愛は、あの御方。  
心からの愛はこの御方。  
どちらになびくか、  
決心できない。

お金が頼りの遊女が迷うんじゃないよ。  
あちらもこちらも、  
義理立てて思つてあげなさい。

行くんじゃないよ。

おや、こいつめ。  
何を言うんだ。

やるのか、殴つてみる。  
受けて下つ腹を蹴つて息切れさせてやる！

下つ腹を蹴られて  
息切れする奴があるもんか！

答えを出せず、  
こんなに苦しい。  
私が死ねば二人とも諦めて下さい。

チルー…  
チルー…  
こと切れてしまったよ。  
おかみ、おかみ！

はい、今度はなんですか。

おい、  
今度はもっと一大事だぞ。  
チルーがこと切れてしまったんだよ。  
こと切れてしまったなら、  
もう用はないぞ。

あれまあ！  
チルー…ああ、チルー…  
お前がこんな風になってしまえば  
残された私は  
どうなるんだい。チルー…  
旦那様にお願いがございます。

チルーはこうなつてしまいました。  
立派に送つてやりたいのですが、  
お金がありません。  
チルーの葬儀費用を  
貸していただけないでしょうか。

葬儀費用だつて？おかみ、  
昨日までならお金は

茶毘入りみ！いえーアンマーよー。  
我んねー昨日までー銭お、

歌「百名節」

「アンマー」に言ちやくとうよー里前  
銭に方付きり  
あきよ我が想い  
仇になゆさ

尾類アンマー  
染みなしや二人  
片付きや親ぬ  
うんじゆなやびらん  
主ぬ前たまし

歌「月ぬ夜節」  
「ちゃーが ちゃーが  
「月ぬ夜になりば  
我忍でいい参り  
闇ぬ夜になりば  
うんじゆ忍ば

主ぬ前  
「ちゃーが ちゃーが  
捨ていらりる我身ぬ  
苦りさていや思ん  
報いありが上に  
行かばちやすが

里之子  
捨ていらりる我身ぬ  
苦りさていや思ん  
報いありが上に  
行かばちやすが

歌「迷懐節」  
ぬんでい焦がりとい  
泣ちみせが里前  
節ゆ待ちみそり  
後ぬ浮世

チル小  
ぬんでい焦がりとい  
泣ちみせが里前  
節ゆ待ちみそり  
後ぬ浮世

里之子  
節待ちゆる内に  
死なば我ねちやすが  
無蔵や畜生者 銭になびち

主ぬ前  
今胴代入りの 相談する内に  
ぶつとうかち無蔵や 此処どう来よるい  
でいちゃ無蔵ゆ内に

母に相談したら、  
お金の方に行けと言うのです。  
ああ、私の思いが  
無意味になってしまうは。

愛し合うのはあなた達でも、  
決めるのは私です。  
あなたは駄目よ、  
チルーは旦那様のもです。

月夜も闇夜も、夜ではない  
愛しいあの人がある夜こそが  
私にとつての夜なのよ

どうだ、どうだ。  
月夜になれば、  
私を忍んでいらしてね  
闇夜には  
私があなただを忍んでいくわ

どうだ、どうだ  
私は捨てられようとも  
苦ではない。  
その報いが、彼女に  
あればどうしよう。

私は捨てられようとも  
苦ではない。  
その報いが、彼女に  
あればどうしよう。

どうして焦がれて  
なくのですか。  
時期をお待ちなさい、愛しいあなた。  
後は良い時代がきます

時期を待つ内に  
死ねばどうするのだ。  
君はひどい女だ、お金になびくなんて。  
身請けの相談していたら、  
君は此処に来ていたのか。  
さあ、中へ。

たくさんあつたんだ。  
急に、無くなつてしまつたよ。

まあ、  
そんな事つてありますか。  
そうおつしやらずに、  
チルーの為と思つて  
貸して下さいませ。

では、  
良い考えがある。  
砂糖を半斤、買つてきなさい。  
半斤ですつて。  
そんなに何に使うんですか。

チルーの体に擦り付けなさい。  
そうすれば  
蟻が持つて行くだろうよ。

まあ、旦那様。  
冗談を言うにもほどがあります。  
人間ですもの、  
そんな事できないでしょう。

そうか、砂糖も金がかかるからな。  
よし、  
もう一つ良い考えがあるぞ。  
藁の袋を準備しなさい。  
そして、チルーを  
藁袋で包んで  
浜辺に置いておきなさい。  
自然に海水が持つていくだろうよ。

あれまあ、なんですつて！  
言わせておけば、  
何でもおつしやいますわね。  
この意地悪男！  
もう付き合つてはおられません。  
ああ、チルー。私を  
許してちょうだいね。

おかみさん、泣かないで下さい。

アンマー、泣ちんしんそーんな。

尾類アンマー

あきさみよーなー、  
チル小…あいえー…チル小、  
汝が此ぬような形ないどうんしえー、  
残さりーる此ぬアンマーや  
ちやーなてい行ちゆが。チル小よー  
主ぬ前たい、うんじゆんかい  
御願えぬあいびーん。  
チル小ーやかんない無えやびらん。  
立派に送り届きんさねーないびらんしが  
先ないる銭ぬ、うちかつてー居いびらん。  
チル小茶毘入りみ、  
借らち呉みしえーびり

あきさみよーなー、  
チル小…あいえー…チル小、  
汝が此ぬような形ないどうんしえー、  
残さりーる此ぬアンマーや  
ちやーなてい行ちゆが。チル小よー  
主ぬ前たい、うんじゆんかい  
御願えぬあいびーん。  
チル小ーやかんない無えやびらん。  
立派に送り届きんさねーないびらんしが  
先ないる銭ぬ、うちかつてー居いびらん。  
チル小茶毘入りみ、  
借らち呉みしえーびり

茶毘入りみ！いえーアンマーよー。  
我んねー昨日までー銭お、

主ぬ前

歌「百名節」

「アンマー」に言ちやくとうよー里前  
銭に方付きり  
あきよ我が想い  
仇になゆさ

尾類アンマー  
染みなしや二人  
片付きや親ぬ  
うんじゆなやびらん  
主ぬ前たまし

歌「月ぬ夜節」  
「ちゃーが ちゃーが  
「月ぬ夜になりば  
我忍でいい参り  
闇ぬ夜になりば  
うんじゆ忍ば

主ぬ前  
「ちゃーが ちゃーが  
捨ていらりる我身ぬ  
苦りさていや思ん  
報いありが上に  
行かばちやすが

里之子  
捨ていらりる我身ぬ  
苦りさていや思ん  
報いありが上に  
行かばちやすが

歌「迷懐節」  
ぬんでい焦がりとい  
泣ちみせが里前  
節ゆ待ちみそり  
後ぬ浮世

チル小  
ぬんでい焦がりとい  
泣ちみせが里前  
節ゆ待ちみそり  
後ぬ浮世

里之子  
節待ちゆる内に  
死なば我ねちやすが  
無蔵や畜生者 銭になびち

主ぬ前  
今胴代入りの 相談する内に  
ぶつとうかち無蔵や 此処どう来よるい  
でいちゃ無蔵ゆ内に

たくさんあつたんだ。  
急に、無くなつてしまつたよ。

まあ、  
そんな事つてありますか。  
そうおつしやらずに、  
チルーの為と思つて  
貸して下さいませ。

では、  
良い考えがある。  
砂糖を半斤、買つてきなさい。  
半斤ですつて。  
そんなに何に使うんですか。

チルーの体に擦り付けなさい。  
そうすれば  
蟻が持つて行くだろうよ。

まあ、旦那様。  
冗談を言うにもほどがあります。  
人間ですもの、  
そんな事できないでしょう。

そうか、砂糖も金がかかるからな。  
よし、  
もう一つ良い考えがあるぞ。  
藁の袋を準備しなさい。  
そして、チルーを  
藁袋で包んで  
浜辺に置いておきなさい。  
自然に海水が持つていくだろうよ。

あれまあ、なんですつて！  
言わせておけば、  
何でもおつしやいますわね。  
この意地悪男！  
もう付き合つてはおられません。  
ああ、チルー。私を  
許してちょうだいね。

おかみさん、泣かないで下さい。

アンマー、泣ちんしんそーんな。

尾類アンマー

あきさみよーなーうんじよー。  
さつていむさつていむ  
あびらしどうんしえー、  
後お何んていん言みしえーさやー。  
やな、しむち悪ターリー小。な、  
うんじゆとーないびらんさ  
あきさみよーチル小、此ぬ親、  
許ちとらうしよー

あきさみよーなーうんじよー。  
さつていむさつていむ  
あびらしどうんしえー、  
後お何んていん言みしえーさやー。  
やな、しむち悪ターリー小。な、  
うんじゆとーないびらんさ  
あきさみよーチル小、此ぬ親、  
許ちとらうしよー

アンマー、泣ちんしんそーんな。

里之子



## 第二部 組踊「女物狂」

おんなものぐるい

組踊の創始者、玉城朝薫の作品です。物語の前半は、人盗人が遊んでいる子どもを言葉巧みに連れ去りますが、寺の僧が策を練り、子どもを救うまでの場面がテンポ良く進行します。一方後半は、行方不明になった我が子を探し、さまざま歩いてる母親が登場し、二揚げ曲のゆつたりとした曲想に合わせて、狂乱の体を表現します。数ある組踊の中でも、起承転結の整った不朽の名作です。

《立方指導》	宮城能鳳（人間国宝）	《歌三線》	西江喜春
《地謡指導》	西江喜春（人間国宝）		
《人盗人》	川満香多		
《母》	新垣悟		
《亀松》	富島花音		
《座主》	嘉手苜林一		
《小僧一》	森山康人		
《小僧二》	國場海里		
《童子一》	宮城琴羽		
《童子二》	宮城柚羽		
《童子三》	渡名喜母英		
《後見》	比嘉侑子		

拍子木  
音曲「大主手事」

盗人

これや人盗人。  
首里わらべぬすで  
那覇わらべ引きやり、  
国頭に売やり、  
中頭に売やり、  
高どしろ売てど、  
たかどしろ取てど  
うまさ物すけて  
うまさものくわやり、  
浮世渡やべる、  
浮世楽しやべる。  
今日のよかる日や

見る人もないらぬ、  
かたはらに寄やり、  
かたはらに立ちやり、  
わらべ待ちぬすま、  
わらべ引きぬすま。  
引きあはちたばうれ、  
ひきつけてたばうれ、  
あいたうとあいたうと。

歌「それかん節」

盗人

風車やとれば、  
風つれてめぐる、  
どしとまひてつれて、  
遊びほしやの。  
あゝ、願たこと  
思たこと、  
ゑいわらへの来る。  
先づ人形を見せかけ、  
人はなれ迄  
すかし行かう。  
ゑいわらへ

歌「しいやぼう節」

四月がなれば、  
梯梧の花咲きゆり、

## 詞章

## 意識

これは人盗人である  
首里の子供を盗んで  
那覇の子供を盗んで  
国頭地方に売り  
中頭地方に売り  
高い身代金で売って  
高い身代金を取って  
うまい物を用意して  
うまい物を喰らい  
浮世を渡っておる  
浮世を楽して暮らしておる  
今日の吉日に

見ている人もいない  
傍らに寄って  
傍らに立って  
子供を待ち伏せて盗もう  
子供を引き寄せて盗もう  
引き合わせてください  
引き付けてください  
ああ尊へ神仏への祈りのことば

風車をとると  
風に吹かれて廻る  
友達をさがしていっしょに  
遊びたいものだ

ああ、願ったら  
思ったら  
良い子が来る  
まず人形を見せかけて  
人里離れた所まで  
だまして行こう  
良い子だ

四月になると  
デイゴの花が咲き

暗さある山ん、  
明くなゆさ、  
しーやーがー  
しーやーがー

暗い山も  
明るくなるよ

これこれ、  
たうたう、今日からやつれて、  
けふからや行きやり、  
うまさ物呉らに、  
此の仏とらさ。  
たうたう、歩め歩め。  
すだし母親に  
暇乞もすらぬ、  
まかへ列れ行きゆが、  
ゆるちたばうれ。

これ これ  
さあさあ、今日からは一緒に  
今日からは（遠くへ）行って  
おいしい物をあげよう  
この人形をやろう  
さあさあ、歩け歩け  
生みの母親に  
お別れもしていない  
どこへ連れて行くのか  
許してください

いや、許すことならぬ  
放すことならぬ。  
あびゆらばあびれ、  
おらびゆらばおらべ。  
これ見ちやめわらべ。  
これ見ちやかわらべ。

いや、許すことはできない  
放すことならぬ  
わめくならわめけ  
叫ぶなら叫べ  
これを見たか、子供  
これを見たか、子供

あれやうい あれやうい。  
たうたう、立て立て。  
父親にだんす  
別れやりをすが、  
又も母親に  
別ると思は。

あれまあ、あれまあ  
さあさあ、立て立て  
父親にも  
死別しているのに  
さらに母親とも  
別れるかと思うと（悲しい）

いやいや、またまた。  
おらびゆらばおらべ。  
これこれ。  
たうたう、歩め歩め。  
昨日からの疲れ  
足もともやみゆり、  
慈悲よ御情に  
暫し休ま。

いやいや、またまた（泣くのか）  
叫ぶなら叫べ  
これこれ  
さあさあ、歩け歩け  
昨日からの疲れで  
足も痛い  
御慈悲お情けで  
しばらく休ませてもらう

盗人  
いやいや、ならぬならぬ。  
今日や夜も暮れて、

いやいや、だめだだめだ  
今日は日も暮れて

盗人  
小僧（一）

わぬや首里者どやゆる  
那覇のどやゆる。  
わらべ引きつれて、  
山原に行きゆん。  
今日や夜も暮れて、  
行く先も見らぬ。  
お情に一夜  
からちたばうれ。

小僧（一）

座主に此のやう  
知らしやうち、  
でよでよ  
宿をからさうや。

座主も聞留めた。  
わらべ引きつれる  
旅立よやらば、  
一夜あかせ。  
たうたう

休みやうれ  
休みやうれ

され され。  
され され

宿かたるわらべ  
ものい声のあすが、  
いきやることあとて、  
とまいて来ちやが。

わ身や首里方の  
侍のなし子。  
遊びばれしちど

行く先も見えない  
あのお寺を頼って  
今宵を明かそう  
さあさあ、歩け歩け  
もしもし  
誰か

私は首里の者である  
那覇の者である  
子供を連れて  
山原に行く（ところだ）  
今日は日も暮れて  
行く先もわからない  
お情けでもって一夜（の宿を）  
貸してください

座主にこのことを  
お知らせして  
どれどれ  
宿を貸そうよ

座主も承知した  
子供を引き連れての  
旅立ちならば  
一夜（をここで）明かせ  
さあさあ、

お休みなさい  
お休みなさい

もしもし  
もしもし

宿を借りた子供の  
物言う声が聞こえるが  
どういことがあって  
尋ねて来たのか

私は首里の  
士族の生みの子である  
遊びほうけてしまつて

人はなれ行きやり、  
盗人に取られ、  
盗人に抱かれ、  
知らぬ道歩ゆで、  
知らぬ此の寺に  
つれられて来ちやん。  
慈悲よ我が命  
救てたばうれ。

人里離れた所へ行き  
盗人に盗られ  
盗人にさらわれ  
知らない道を歩いて  
知らないこの寺に  
連れて来られた  
お慈悲ですから私の命を  
助けてください

氣遣いすなわらべ。  
見ちやる目のいちやき、  
いきやしがな命  
救てとらさ。  
小僧ども集め、  
談合しめさしやう。  
小僧どもよ小僧どもよ。  
ほう。

心配するな、子供  
見た目の痛わしさ  
何としてでも命を  
助けてあげよう  
小僧どもを集めて  
その相談をさせよう  
小僧たちよ、小僧たちよ  
はい

よいに宿かたる  
花ざかりわらべ  
遊びほれしちど  
人はなれ行きやり、  
盗人に取られ  
こがとぎやで来ちやる。  
いきやしがな命  
助けほしやの。

宵に宿を借りた  
可愛らしい子供は  
遊びほうけてしまつて  
人里離れた所に行き  
盗人に盗られ  
こんな遠くまで来てしまつた  
何としてでも命を  
助けてやりたいものだ

いやいや にくい者よ。  
いやいや やからものよ。

いやいや、憎い奴だ  
いやいや、罔々しい奴だ

ゑい、小僧。  
分別をしやうち、  
しばて置かうや。

これ、小僧たち  
正しい判断をして  
(盗人を)縛ってしまおう

あゝ、思付ちやることの  
我身に又あゆん。  
首里からどやゆる  
那覇からどやゆる。  
わらべ引盗で、  
行く先も知らぬ。  
似ちよるものあらば、  
似ちよる者聞かば、

ああ、思い付いたことが  
私にあります  
首里からだが  
那覇からだが  
子供を引き盗んで  
行方がわからない  
似ている者がいたら  
似ている者が(いると)聞いたら

行く先も知らぬでて、  
書付のあもの、  
御羽書のあもの、  
たうたう、  
耳の根よほらち、  
だによ聞きとめれ。

行方も知らないといつて  
書付がある  
さあさあ  
耳の穴を開けて  
しかと聞き留めよ

小僧(一)

童 覚

童 覚

童子(一)

小僧(二)

衣裳浅地黄地に形付、  
盗人歳廿四五、  
丈程大方、  
色黒く、  
眉黒く、  
眼細く、  
鼻大く、  
口大く、  
髪に頭巾、  
腰に鎌差、  
右当月二十日の夜、  
何某子盗人に捕られ、  
行先不相知候間、  
見出聞出候はゞ、  
即刻搦取り、  
首尾可有之者也

衣裳は浅地黄地に形付  
盗人は歳が二十四五  
身長は高く  
色は黒く  
眉は黒く  
目は細く  
鼻は大きく  
口は大きく  
頭に頭巾  
腰に鎌を差している  
右の者は今月二十日の夜に  
何某の子、盗人に捕らえられ  
行方がわからないので  
見出し聞き出すことがあったら  
すぐ搦め捕り  
逃がさないようにせよ

小僧(二)

いや ぬかさぬ。  
ああ、出来た出来た。

いや、逃がさないぞ  
ああ、でかした、でかした

小僧(二)

(おう。  
目眉色清き  
花ざかりわらべ、  
今日からや弟子に  
取らんしゆもの。  
氣遣すなわらべ、  
たよりあるやらば、  
つれて、思わらべ、  
行かんしゆもの。

美しい顔の  
美しいさかりの子供よ  
今日から弟子に  
取ろうと思う  
心配するな子供よ  
機会があれば  
愛しい子よ、連れて  
行くつもりだ

座主

歌「子持節」

去年の初夏の頃に  
去年の若夏の頃に

座主

しまてをて語れ、  
しばてをて知らせ。  
首里早使あもの、  
那覇早使あもの、  
おがが年すがた  
わらべ年すがた  
似ちよるごとあものでて、  
起ちたぶらかち、  
しまて置きやべら。

縛っていて報告せよ  
縛っていて知らせよ  
首里からの早使いがあるから  
那覇からの早使いがあるの  
お前の年格好  
子供の年格好  
似ているようだからと言って  
起こしてたぶらかして  
縛っておきましょう

小僧(二)

(おう。  
これこれ、座主の前。

座主

いやいや  
しちやるまげさ。

はい  
これこれ、座主様

小僧(一)

いやいや  
式目の根末  
呑込だるまげさ。

はい  
いやいや、  
したごとの大げさなこと

小僧(二)

いきやが いきやが。

どうだ、どうだ

座主

ゑい小僧。  
たう、やらば、  
急ぎ起さう。

これ小僧  
さあ、それならば  
急ぎ起こそう

小僧(二)

(おう。  
いやいや。  
大事や目の前に  
置きなげな男、  
心ゆるゆると  
寝るな、起きれ。

はい  
いやいや  
大変な事が目前に  
起きようとしているのに、この男は  
安心しきつて  
寝るでない、起きよ

盗人

何事かあつて、  
こねや我ぬ起こす。  
これよこれよ。  
首里からどやゆる、  
那覇からどやゆる。  
わらべ引きぬすで、

何事があつて  
こんな夜更けに私を起こすのか  
これよ、これよ  
首里からであるぞ  
那覇からであるぞ  
子供を盗み出して

小僧(二)

玉黄金一人子  
あしゆらしち居らぬ。  
かつ死にがしちやら、  
とまればも居らぬ  
肝ふれて居ゆん  
肝迷ていきゆん。

大切な一人子  
行方不明にして、いない  
餓死をしたのか  
捜してもいない  
気がふれている  
理性を失っている

童子(一)

ゑいゑい、  
あれ見ちやか見ちやか。  
女狂人の  
踊りしち来ゆん。  
見物よ見物よ、  
でよよつれて  
見だうや。

やーい、やーい  
あれ見たか見たか  
物狂い女が  
踊りながらやって来る  
見物だぞ見物だぞ  
やいやい一緒に  
見ようよ

童子(二・三)

ゑいゑいふれもの、  
又も踊れ踊れ。  
心あれわらべ、  
思尽くすことの  
身に余て居てど  
狂れて居ゆる。

やーい、やーい、物狂い  
もつと踊れ、もつと踊れ

童子(一・二・三)

ゑいゑい、ふれもの  
思尽すことの  
身に余て居らば  
踊て片時も  
遊で暮す。

素直な心を持ちなさい、子供よ  
思い詰めることが  
身に余っているのなら  
気がふれているのだ

童子(一・二・三)

ゑいゑい、ふれもの  
思尽すことの  
身に余て居らば  
踊て片時も  
遊で暮す。

やーい、やーい、物狂い  
思い詰めることが  
身に余っているのなら  
踊て片時も  
遊んで暮らせ

歌「散山節」

座主

この世に居るのか(それとも)  
あの世にいるのか  
大切な一人子は  
分らない  
いやい、小僧たち  
女の物狂いが  
踊て来るぞ  
見物だぞ、見物だぞ  
おいでなさい、おいでなさい

小僧(一)

ゑい、ふれもの、  
踊れ踊れ。

やい、物狂い  
踊れ踊れ



小僧（二）	ゑい、ふれもの、いきやることあとて、女ふれもの、鹿相に寺内をとまいて来ちやが。	やい、物狂い、どんなことがあつて女物狂いが無遠慮に寺の内まで尋ねて来たのか
母	去ちやる三月の二十日なて、一人子失やり、肝も肝ならぬ、恥も恥ならぬ、とまילהも居らぬ、肝ふれてをゆん、肝迷て居ゆん。	去年の三月二十日に一人子を失い、気が気ではなく、恥も恥とせず、搜してもいない、気がふれています、心迷つています
座主	ゑい、わらべども、云ることよ聞けば、無蔵なものよ。無理になばくるな、急ぎ戻れ。	これこれ子供たち言うことを聞くこと可愛そうな者よ、ひどくからかうな、急いで帰りなさい
小僧（一）	たうたう、もどれもどれ。	さあさあ、帰れ帰れ
座主	ゑい、女、失たるわらべ、年頃やいくつ。	これ女よ、失つた子供は、歳はいくつか
母	七ツ	七歳
座主	名は。	名前は
母	亀松。	亀松
座主	思合はしゆること、あてど尋ねゆる。玉黄金一人子、これやあらね	思い当たることがある、ので尋ねるのだ、大切な一人子は、これではないかね
母	玉黄金一人子、生ち居ため。	大切な一人子よ、生きていたのか
子	やあ、母親よ。	やあ、母親よ
歌「東江節」	あしけ、生ち居ため。	あらまあ、生きていたのか

## 出演者紹介

《立方指導》

**宮城 能鳳** みやぎのうほう

宮城本流鳳乃會家元。宮城流・流祖宮城能造に師事。重要無形文化財「組踊立方」保持者（各個認定（人間国宝））。重要無形文化財「組踊」保持者（総合認定）。重要無形文化財「琉球舞踊」保持者（総合認定）。

**嘉手苺林 一** かでかるりんいち

宮城本流鳳綾羽乃會会主。宮城能鳳に師事。重要無形文化財「組踊」保持者（総合認定）。

**新垣 悟** あらかきさとる

宮城本流鳳乃會師範。宮城能鳳に師事。

**川満 香多** かわみつ こうた

琉球舞踊穂花会師範。亀浜律子に師事。沖縄タイムス芸術選賞奨励賞受賞。国立劇場おきなわ組踊研修了。

**森山 康人** もりやま やすと

琉球舞踊世舞流良和の会。佐辺良和に師事。国立劇場おきなわ組踊研修了。

**國場 海里** こくば かいり

玉城流琉舞うるま会教師。儀武八重子に師事。国立劇場おきなわ組踊研修了。

**宮城 琴羽** みやぎ ことば

宮城本流鳳・綾侑乃會所屬。比嘉侑子に師事。

**宮城 袖羽** みやぎ ゆずは

宮城本流鳳・綾侑乃會所屬。比嘉侑子に師事。

やい、物狂い、どんなことがあつて女物狂いが無遠慮に寺の内まで尋ねて来たのか

去年の三月二十日に一人子を失い、気が気ではなく、恥も恥とせず、搜してもいない、気がふれています、心迷つています

これこれ子供たち言うことを聞くこと可愛そうな者よ、ひどくからかうな、急いで帰りなさい

さあさあ、帰れ帰れ

これ女よ、失つた子供は、歳はいくつか

七歳

名前は

亀松

思い当たることがある、ので尋ねるのだ、大切な一人子は、これではないかね

大切な一人子よ、生きていたのか

やあ、母親よ

あらまあ、生きていたのか

**渡名喜 苺英** となきもえ

宮城本流鳳綾侑乃會所屬。比嘉侑子に師事。

**富島 花音** とみしま かのん

宮城本流鳳・綾侑乃會所屬。比嘉侑子に師事。

**赤嶺 啓子** あかみね けいこ

玉城流光乃会師範。大城光子に師事。沖縄県指定無形文化財「琉球歌劇」保持者。

**嘉数 道彦** かかず みちひこ

宮城流能里乃会師範。初代宮城能造・宮城能里に師事。沖縄タイムス芸術選賞大賞（演劇）受賞。松尾芸能賞新人賞受賞。国立劇場おきなわ前芸術監督。

**知念 亜希** ちねん あき

玉城流翔節塵佐子の会師範。我如古塵佐子に師事。沖縄タイムス芸術選賞奨励賞（演劇）受賞。

**金城 真次** きんじょう しんじ

国立劇場おきなわ芸術監督。玉城流扇寿会師範。国立劇場おきなわ芸術監督。玉城流扇寿会師範。谷田嘉子、金城美枝子に師事。沖縄県指定無形文化財「琉球歌劇」保持者。沖縄タイムス芸術選賞奨励賞（演劇）受賞。国立劇場おきなわ組踊研修了。

**伊禮門 綾** いれいじょう あや

劇団綾船所屬。平良進・平良とみに師事。

玉黄金一人子とまいつちやることや夢が又やゆら、定めぐれしや。

やあ母親よ、盗人に捕られ、この御寺たので、座主の前お情に生ち居やべたん。

ゑい、女、去ちやる三月の二十日なて、盗人に捕られ、この寺に来ちやん。見ちやる目のいちやさ、肝ぐれしやあてど、露の身の命、救てあたる。

座主の前お情に一人子今日もらて、この御恩いつも忘れぐれしや。

いやいや、不思議な縁よ、不思議な縁よ。たうたう、今日の誇らしやや、なをにぎやなたてる。おしつれて互に、踊て戻れ。

けふのほこらしやや、なをにぎやなたてる、つほでをる花の露きやたこと。

《地謡指導》

**西江 喜春** にしえき しゅん

琉球古典音楽安富祖流絃聲会師範。宮里春行に師事。重要無形文化財「組踊音楽歌三線」保持者（各個認定（人間国宝））。重要無形文化財「組踊」保持者（総合認定）。重要無形文化財「琉球舞踊」保持者（総合認定）。沖縄県指定無形文化財「沖縄伝統音楽安富祖流」保持者。

**花城 英樹** はなしろ ひでき

琉球古典音楽安富祖流絃聲会師範。岸本吉雄に師事。重要無形文化財「琉球舞踊」保持者（総合認定）。

**玉城 和樹** たましろ かずき

琉球古典音楽安富祖流絃聲会師範。西江喜春に師事。国立劇場おきなわ組踊研修了。

**大城 貴幸** おおしろ たかゆき

琉球古典音楽安富祖流絃聲会師範。濱元盛爾に師事。国立劇場おきなわ組踊研修了。

**宮里 秀明** みやざと ひであき

琉球箏曲興陽会師範。玉城香代・根路銘ノブに師事。重要無形文化財「組踊」保持者（総合認定）。沖縄県指定無形文化財「沖縄伝統音楽箏曲」保持者。

**宮城 英夫** みやぎ ひでお

琉球古典音楽安富祖流絃聲会師範。大湾清之に師事。重要無形文化財「琉球舞踊」保持者（総合認定）。重要無形文化財「組踊」保持者（総合認定）。沖縄県指定無形文化財「沖縄伝統音楽安富祖流」保持者。

大切な一人子を捜し当てたのは（もしかして）夢ではないかしらはっきりしない程だ

やあ、母上よ、盗人に捕らえられ、この寺にお願いして、座主様のお情けによつて生きておりました

これ、女よ、去年の三月の二十日に、盗人に捕らえられ、この寺に来た、見た目の痛々しさ、気の毒なので、はかない命を、救つてあげたのだ

座主様のお情けで一人子を今日もらい受けてこの御恩はいつまでも忘れられない

いやいや、不思議な因縁だ、不思議な因縁だ、さあさあ、今日の嬉しさは、何に譬えようか、連れだつて互いに、踊つて戻りなさい

今日の嬉しさは、何に譬えようか、苔んでいる花が、露に達つたようだ

**川平 賀道** かわひらしげのり

琉球古典音楽安富祖流絃聲会師範。山内秀雄に師事。重要無形文化財「琉球舞踊」保持者（総合認定）。沖縄県指定無形文化財「沖縄伝統音楽安富祖流」保持者。

**比嘉 聰** ひがさとし

光史流太鼓保存会師範。島袋光史に師事。重要無形文化財「組踊音楽太鼓」保持者（各個認定（人間国宝））。重要無形文化財「組踊」保持者（総合認定）。重要無形文化財「琉球舞踊」保持者（総合認定）。

**比嘉 侑子** ひがゆうこ

宮城本流鳳・綾侑乃會会主。宮城能鳳に師事。

公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団

《監修》 金城真次（国立劇場おきなわ芸術監督）

《舞台監督》 山城譲二

《美術・舞台》 小波津朋子

《照明》 香村葵

《音響》 我那覇輝

《字幕操作》 比嘉啓和

《制作》 入嵩西諭 金城夕子 金城樹

《展示》 茂木仁史 高橋絵梨子

《広報・宣伝》 仲間弓 上原崇弘 赤嶺桃子

《お問合せ》

京都芸術大学 舞台芸術研究センター

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-1-116

TEL 075-791-9207 <https://k-pac.org/>

京都芸術大学 舞台芸術研究センター

《企画》 田口章子（京都芸術大学芸術学部教授）

《技術監督》 大田和司

《春秋座劇場管理》 大野淳一郎 小山陽美 神家洋志郎

《宣伝美術》 井川萌

《広報》 藤井宏水 森田有紀

《制作》 井出亮 芝田江梨 井川萌

《字幕オペレーター》 山口俊平（Zimaku+）

## アンケート回答へのご協力をお願い



本公演では、Webでのアンケートをおこなっております。ご回答いただいた内容は、今後の企画の参考とさせていただきます。上記のQRコードを読み取り、アンケートへのご回答をお願いいたします。

回答期限：6月10日（月）17時まで

## 11月1日は琉球歴史文化の日



先人たちが創り上げてきた沖縄の歴史と文化への理解を深め、故郷への誇りや愛着を感じられる地域社会の形成に取り組むとともに、新たな歴史と文化を自らの手で創造するため、令和3年3月に琉球歴史文化の日条例を制定し、11月1日を琉球歴史文化の日と定めました。